

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	金城大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キンジョウダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	社会福祉学部
	担当教職員名・役職	北潟克輔・教授、高島智世・准教授、内 慶瑞・教授、竹腰 敦・教授、松下高信・教授、西郁代子・講師、岡森 剛・就職進学支援部長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	8
	受入企業等数	11
	受入企業等名	石川県庁、高岡市役所、池田病院、芳珠記念病院、石友ホーム株式会社、今村証券株式会社、白崎シーサイドホテル多田屋、佃食品株式会社、株式会社テレビ金沢、株式会社横山商会、
	インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ,9. その他
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	医療法人・社会福祉法人でのインターンシップ	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外で実施している就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	自治体で担当部署事務業務体験・課題演習等、医療法人で管理事務業務体験、社会福祉法人で介護・介助体験、企業では販売体験・製造体験・営業体験・スタジオ制作・ニュース取材体験、プレストーミング・KJ法、ビジネスプランの作成やプレゼンテーション・教育研修と見学まで体験する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	講義で15回、実習で学外事前・事後研修参加と企業等の5日以上就業体験、およびプレゼンテーション講習と学内報告会の参加をもって単位認定
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	受け入れ期間の長いものについては、就業体験現場で学生面談とともに、インターンシップ担当者とのモニタリングも実施している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	シラバス内容に沿って学内で講義形式で実施するとともに、ジョブカフェ石川が主催する直前研修会に参加を義務づけている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	日報の提出内容の確認、報告書の提出確認、企業側から回収の評価表の内容確認、などを担当教職員全員が行い学生へフィードバックする。また、学外の事後研修参加と就業体験の振り返りのために体験企業・団体のプレゼンテーション資料作成講習を行い、成果報告会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生の就業体験が就業意識や学業意欲につながるように、シラバス記載内容に沿って観察と確認、アドバイスをを行う。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	日報・報告書・レポート・受入れ先記入の評価表・プレゼン等での相互アンケート、自己チェックシート、プレゼン資料作成などを通して、自己の成果を確認させる。また、石川県主催の事後研修会に参加することで、他大学生徒の情報交流を行い自分の体験に広がりを持たす。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間から7日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	2社あわせて5日以上
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則1社5日以上であるが、地域特性や業種特性により、2社あわせて5日以上、2社どちらかまたは双方に就業体験が設定されていること。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則1企業・1団体で5日間以上の就業体験を指導。そののち、新たに複数の就業体験希望については、学業に支障ない限り好ましいとして継続して指導体制を維持。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.kinjo.ac.jp/ku/outline/research/Syllabus_social.pdf">http://www.kinjo.ac.jp/ku/outline/research/Syllabus_social.pdf</a>
問い合わせ先	大学等名	金城大学
	担当部署名	就職進学支援部、インターンシップ担当委員会
	担当者役職名	就職進学支援部長、インターンシップ担当委員会委員長
	担当者氏名	岡森 剛、北潟克輔
	電話番号	076-276-4400
	メールアドレス	daijob@kinjo.ac.jp